

北海道エリアにおける夏季のピーク発生時間および今夏最大電力の需要分析について

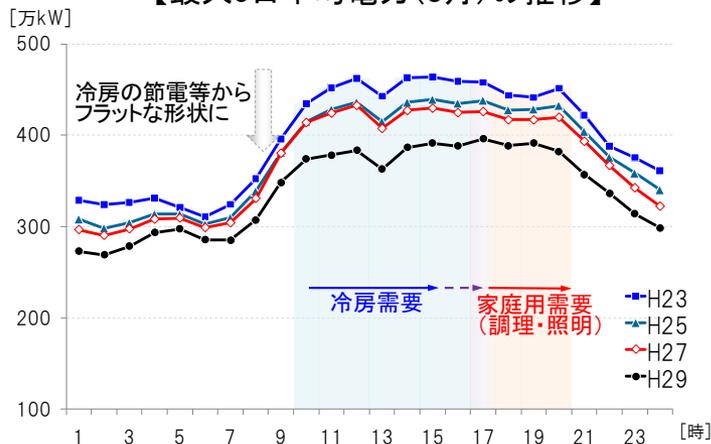
1. 夏季のピーク発生時間について

第22回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 資料2-1 参考資料1

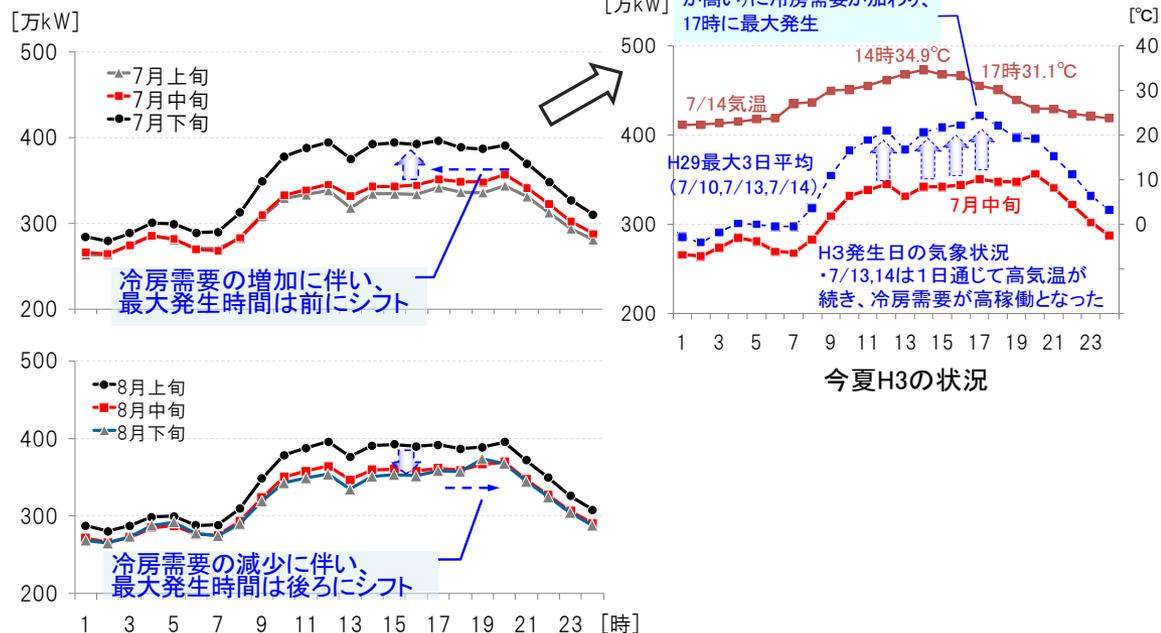
平成29年10月12日 北海道電力株式会社

- 北海道エリアの夏季需要は、昼間は冷房需要により、夕方以降は調理や照明需要などから、同程度の水準にある。至近は冷房の節電などから、よりフラットな形状になっている。
- 7～8月の需要水準は、高気温で冷房需要が増加する7月下旬～8月上旬が総じて高い。7月上中旬や8月中下旬は冷房需要が小さいことから、日最大は17時以降となる日が多い。
- 今夏の最大3日平均電力発生日(7/10,13,14)は、この時期では記録的な猛暑となり、7月中旬の需要状況に冷房需要が加わったことから、17時の最大発生になったものと考えている。

【最大3日平均電力(8月)の推移】



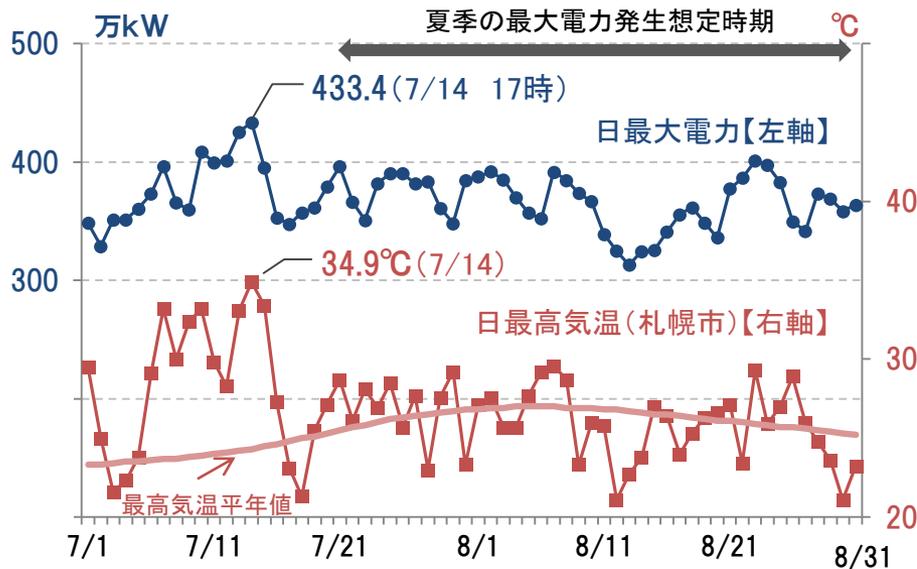
【7～8月の需要動向(旬別・平成27年度平日平均の例)】



2. 今夏最大電力の需要分析について

- 夏季の最大電力は7月下旬から8月の発生を想定していたところ、今夏については7月14日(7月中旬)の433万kWとなった。
- これは7月上旬から高気温が続き、7月14日に今夏の最高気温(札幌市34.9℃)を観測したことから冷蔵庫や冷房機器などが高稼働となったことによるものと推定される。
- 最高気温(平年値)の推移から、基本的には今後も7月下旬から8月に夏季最大電力が発生すると考えているが、今夏の実績を踏まえながら来年度以降の需要動向を注視していきたい。

【今夏の気温と需要実績(札幌市)】



【今夏H1実績の分析】

